八幡事業所 Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所 Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP:http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2022年11月22日
第３１０号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

第19回 特定非営利活動法人 通院介護センター「さわやか」定期総会開催

十月二十九日（土）午前十時から、福岡県立北九州市勤労青少年文化センター（通称・北九州パレス）（小倉北区）第二会議室で第十九回特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」の定期総会を開催しました。

マスクの着用と手指消毒等を徹底

今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、マスクの着用と『密』にならないようにし、手指の消毒や部屋の換気を徹底するなど、特に気をつけて行ないました。

出席者が全員揃ったので、定刻より十分早く始めました。

初めに、司会の高原事務局長が開会宣言を行ない、資格審査委員に貞谷事務局員が選任されました。

続いて、山田理事長が挨拶がありました。

次に、貞谷資格審査委員より、定款条項に基づき総会は成立する旨、報告がありました。

そして、議長に岡副理事長が選任され、議事録署名人に山田理事長と梶原常務理事が選任されました。

その後、議案の審議に入りました。

第一号議案の令和三年度活動報告、第二号議案の令和三年度収支決算報告、第三号議案の令和三年度会計監査報告、第四号議案の令和四年度度活動方針（案）、第五号議案の令和四年度事業計画及び収支予算（案）、第六号議案の役員改選が提案され、議案は全て満場一致をもって承認されました。

その中で、今年は役員改選の年であり、役員の任期満了に伴い、左上の者が役員として再任しました。

その後、理事会を開催し、互選にて理事長一名・副理事長二名が選任されました。

最後に、山田理事長より十月一日からアルコール検知器による酒気帯び確認の開始を行う予定でしたが、警察庁より検知器の供給状況が必要台数に対応できていないため延期する方針が示されたため、「さわやか」でも当分の間、延期する旨報告がありました。

全ての審議が終了し、岡議長の解任の挨拶があり、高原事務局長が閉会を告げ、午前十時四十五分に終了しました。

令和3年度 「さわやか」活動報告

項　目	合算	八幡	小倉
登録ボランティア数	26名	8名	18名
登録車両数	23台	8台	15台
（うち軽自動車数）	（8台）	（2台）	（6台）
登録利用者数	25名	18名	7名
送迎回数	1468回	564回	904回

（八幡・小倉事業所合算　令和4年3月31日現在）

新役員紹介

理事長　山田浩美
（かわい泌尿器科クリニック）

常務理事（兼）副理事長　梶原待子
（かわい泌尿器科クリニック）

副理事長　岡　俊一
（かわい泌尿器科クリニック）

理事　若原清彦
（折尾クリニック）

理事　高原由美
（今村クリニック）

監事　小田睦美
（難病）

今後とも、よろしくお願いいたします

送迎の実態と事務の状況を把握するための調査

十一月十五日（火）午前十時から、「福祉有償運送の実態に係る実地調査」が小倉事業所で行なわれました。北九州市の福祉有償運送を担当する保健福祉局地域支援部地域福祉推進課より、井上樹子係長が来所されました。

この実態調査は、毎年この時期に行なわれており、行政と北九州市福祉有償運送運営協議会が各事業所の送迎の実態を把握するための調査です。

今年は小倉事業所で行なわれました。

マスクの着用と手指消毒

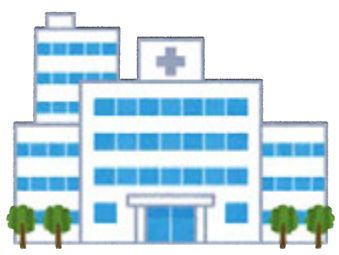
部屋の換気を徹底

新型コロナウイルスの対策として、マスクの着用と手指の消毒、部屋の換気を徹底しました。

また、机の上に、アクリル板を置き、飛沫感染対策を行ないました。

初めに、井上係長は、「活動報告書及び車両点検表」の確認や、運転ボランティアさんに対する点呼の方法、送迎時の事故や苦情の有無や対応、送迎時の車にステッカーを貼っているのかを確認していただきました。

北九州市保健福祉局地域支援部
地域福祉推進課
井上　樹子係長



次に、最新の運転者名簿や自動車登録簿、利用者名簿の確認、利用料金一覧、領収証などの必要な書類がきちんと揃っているのかを確認されていました。

実地調査は、午前十時三十分に終了しました。

世界糖尿病デー（World Diabetes Day）とは？

十一月十四日は世界糖尿病デー（World Diabetes Day）です。そこで、世界糖尿病デーについて一緒に勉強しましょう。

糖尿病の治療が飛躍的な進歩をとげる

世界糖尿病デーとは、世界保健機関（WHO）が定めた国際デーです。

糖尿病の脅威が世界的に拡大しているのを受け、世界規模で糖尿病に対する注意を喚起しようと、国際糖尿病連合（IDF）と世界保健機関（WHO）によって一九九一年に開始され、二〇〇六年には国連の公式の日になりました。

十一月十四日は、一九二二年にチャールズ・ベストとともにインスリンを発見したフレデリック・バンティングの誕生日にあたります。インスリンの発見により、糖尿病治療は飛躍的な進歩をとげました。

二〇二一年は、インスリンの発見から一〇〇年目の記念すべき年となりました。

世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」は、世界的に増加を続ける糖尿病に対する意識を高め、一致団結して対策していく必要性を呼びかけるために掲げられます。

日本でも、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会が中心となり、世界糖尿病デー実行委員会を設立し、様々な活動を展開しています。

世界で五秒に一人の命を奪う糖尿病

糖尿病は、今や世界の成人のおよそ十人に一人（五億三七〇〇万人）が抱える病気です。

一般的に死に至る病気との認識は薄いですが、年間実に六七〇万人以上が、糖尿病の引き起こす合併症などが原因で死亡しています。

これは世界のどこかで、五秒に一人が糖尿病に関連する病で、命を奪われている計算となり、AIDSによる死者に並ぶ数字です。

ちなみに、国連決議が採択された二〇〇六年は十秒に一人でしたから、残念なことに十六年間で半分の秒数になってしまいました。

このまま進むと、世界の糖尿病人口は、二〇四五年には約七億八三〇〇万人に達することが予想されています。

糖尿病患者の増加は、特に発展途上国で顕著に見られ、経済成長や生活水準の向上、教育改善の大きな妨げとなっています。

（インターネットより抜粋）

Dr. 江頭眞紀子氏によるとっておきのお話しPart④

今回は、第四弾として公益財団法人健和会 健和会京町病院の医師であり、「さわやか」の名誉顧問でもある江頭眞紀子先生からとっておきのお話を提供していただきましたので、ご紹介します。

そらまめ

公益財団法人健和会 健和会京町病院
医師 江頭 眞紀子

糖尿病外来のある日、あるおじさんの血糖がいつもより高めでした。

おじさんが、「トウマメを食べたからかな」と話すと、私が「トウマメって何ですか？」と聞くと、その場にいた看護師さんが、「あら先生、トウマメ知らないんですか？」

さやに入ってて、さやの内側にふわふわした白い毛があって」と答えました。

そして私が「ソラマメのこと？」と問うと、「ソラマメってなんですか？」と看護師さんが答えました。

その後、さんざん議論した結果、トウマメがソラマメのことだとわかったのですが、「あなた看護婦でしょうが。

腎臓がソラマメ型の臓器だって習ったでしょ。

なんだと思ってたのよ？」と私が言うと、看護師さんが「ああそういえば、腎臓ってトウマメの形してますねえ」と話しました。

ベテランの看護師さんなのですよ。

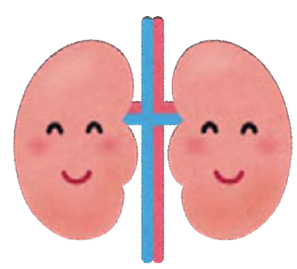
私は、関東の育ちです。

ソラマメは、全国区の言葉ではなかったのです。

英語では、ソラマメを『キドニービーンズ』と言います。

『キドニー』とは、腎臓のことです。

肉食の西欧人には、腎臓の形の方が先にあったのですね。



かつての農家ではブタを飼って、それを屠殺（とさつ）して自家製のベーコンやハムやソーセージを作ったのです。

バネ指ってご存知ですか。

腱が肥厚して指を曲げにくくなる状態です。

ちょっと抵抗があって、カクンと曲がります。

それを英語では、『トリガーフィンガー』と言います。

『トリガー』とは、銃の引き金のことです。

その引き金を引く感覚と、バネ指の指を曲げる時の感覚が似ているというのです。

銃の引き金を引く時の感覚なんて、ほとんどの日本人は知りませんよね。

西欧人と日本人の感覚の違いはこんなところにもあるんですね。